

1型糖尿病研究基金のとりくみ

当基金では、治療・根治・予防が切れ目なくつながって実現することが本当の「根治」と考えています。
例えば各カテゴリーで以下のような研究事例がその対象になります。

カテゴリー	治療	根治	予防
	現在の治療法の改善により、 体への負担が軽くなり、 生活の質が向上する。	インスリン補充から解放され、 病気になる前の もとの体に戻る。	これから新しく発症する患者を 無くして、1型糖尿病を 完全に克服する。
研究事例	完全に自動化された インスリンポンプ （機械式人工膵島） 血糖値に対応して効き目が 調節されるインスリン製剤 （自己調節型インスリン）	インスリンを作る細胞の移植 （すい島移植） 自分の体の細胞によって失った すい島を再生（再生医療）	免疫作用を調節して 発症を未然に防ぐワクチン

1型糖尿病研究基金は運営団体の認定NPO法人日本IDDMネットワークが他の会計とは別に特別会計を設け、明確に区分し管理しています。
1型糖尿病の研究を対象に毎年公募などによる助成を行っています。
選考結果及び、その成果につきましては“IDDMレポート（白書）”でサポーターの皆さまへご報告します。

私たちも応援しています。



京都大学IPS細胞研究所 所長

山中 伸弥

基金を作って、研究費を支援していることは本当に素晴らしいことだと思います。私たち研究者のモチベーションは成果を待っている患者さんに貢献したいという思いです。本当に糖尿病を何とかしたいと思っています。



プロフィギュアスケーター

荒川 静香

この基金を通して、根治のための研究がよりスムーズになり、患者さんやそのご家族に、「治るから」という言葉をかけられる。そんな希望溢れる未来がくることを心から願っています。

1型糖尿病研究基金は「認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク」が運営しています。



日本IDDMネットワークは、不治の病である1型糖尿病の根治に向けて活動しています。阪神・淡路大震災の際、患者がインスリンの入手に大変な苦労を強いられた事を契機に、患者・家族の全国的連携を図るため1995年9月に発足しました。私たちは、この1型糖尿病を「治らない」から「治る」病気にし、患者と家族が希望を持って生きられる社会の実現を目指しています。

【日本IDDMネットワークの3つの約束】

救う—患者・家族の生活を改善するために正確な情報提供、相談対応などを行います。

つなぐ—協働、啓発などで患者と医療者・製薬企業など社会全体をつなぎます。

解決する—「1型糖尿病研究基金」により1型糖尿病を根治するための研究を促進します。



患者や、患者家族向けの出版物も発行しています

事務局：〒840-0823 佐賀県佐賀市柳町4-13 / Tel:0952-20-2062 / Fax:020-4664-1804 / e-mail:info@japan-iddm.net

IDDM 検索 <https://japan-iddm.net/>

「わたし治るの？」
って聞かれたとき
「治るよ」って
言ってあげられ
なかった。

「治るよ」と言える社会へ

1型糖尿病の2025年までの根治を目指して

1型糖尿病研究基金

1日33円からの

マンスリー サポーター

ご協力をお願い

認定特定非営利活動法人

日本IDDMネットワーク

<https://japan-iddm.net/>

1型糖尿病を根治し、 「治るよ」と言える社会に。

ゆうこちゃんは、毎日注射を 打たなくてよい生活を夢見ています。

8歳のゆうこちゃんは発症した0歳のときから
これまでに10,000回以上もの注射をしています。
毎日注射を打つことになってしまっていますが
注射の無い生活を夢見ています。
ゆうこちゃんと同じように、現在の医療では
治らないとされている1型糖尿病の患者は
全国に10～14万人いると推定されます。



ゆうこちゃん(8歳)

患者さんの希望のために 1型糖尿病研究基金は 2025年までの根治を目指した研究への 助成基金です。

1型糖尿病の患者や家族は、インスリン注射を一生打ち続けなければならない、
「治らない」ということで絶望してしまいます。
そんな患者や家族に「治るよ」と言えるよう、
医学・医療の現場では、根治を目指した研究が日々行われています。
根治に向けた研究は、患者や家族にとっての希望です。
当基金は、「治るよ」と言える日が来るという希望のために設立され、
根治を目指した研究の継続・促進を目的として助成を行っています。

根治に向けた研究をこれまで以上に支えるために 3,000人のサポーターが必要です。

1型糖尿病の根治のためには、数多くの研究を行うことや、研究を継続することが非常に重要です。
そのため、当基金では1億円の助成金を集めるために3,000人のサポーターを募集しています。
患者・家族が元となっている当基金からの助成金は患者・家族みんなの思いがこもっているため
研究者にもその思いが伝わり研究を促進させることができます。
子どもたちの希望のために、マンスリーサポーターになって、あなたの力を貸してください。

私たちも子どもに希望を持ってほしいと願います。

この基金は患者・家族によって作られ、
研究者やサポーターと一体になって根治を目指すために活動しています。

看護師



患者さんに
「治るからね」って
言ってあげたい。

原内科クリニック / 京都大学大学院
看護学博士
(東海地区 糖尿病看護認定看護師の会)世話人
水野 美華

糖尿病医療に携わるようになってから、多くの1型糖尿病の方やそのご家族と出会い、みなさんの進学、就職、結婚、出産など、嬉しいこともたくさん経験をさせていただいています。患者さんには糖尿病に振り回されない人生を送って欲しいというのが私の願いです。これまで教科書からは学べないことをみなさんから教えてもらい育ててもらったご恩を、少しずつお返ししていきたいと思っています。

患者
家族



基金が発展して
研究が進めば
希望も増える。

mimiface JAPAN 代表
山本 麻未

「治らない」という道しかなかったところから、多くの方々の努力や思いや応援で、「治る」という可能性の道ができるということは、子どもたちに希望や勇気を与える大きなギフトだと思います。そして、1型糖尿病だけでなく様々な病気の患者様にも希望を繋ぐことが出来るのではないかと思います。基金を通して研究に尽力くださる皆様のお力に少しでもなれることは患者家族としても嬉しく思います。

研究者



希望のために
大切にに使わせて
もらっています。

国立国際医療研究センター
膵島移植プロジェクト研究アドバイザー /
大塚製薬工場研究開発センター特別顧問
松本 慎一

バイオ人工膵島移植や膵島再生など根治に向けた研究はいよいよ現実味を帯びてきました。現実にするには継続した研究が不可欠ですが、研究費が無ければ継続できません。基金からの研究費は研究継続に大いに役立っています。一日でも早く子どもたちを注射から解放してあげたいという思いで日々研究に励んでいます。

患者



「治る」という言葉は
私たち患者に
勇気を与えてくれます。

エアロビック競技元日本代表
大村 詠一

私は8歳のときに発症しました。それから25年以上、毎日注射を打っています。発症して聞かされた「治らない」という事実は、当時小学生だった自分には受け入れがたく、絶望したのを覚えています。同じ思いをする子どもがいない世の中にしたいので、この基金のサポーターになりました。「この病気は治るよ!」と言ってあげられる日が早く来てほしいです。

1型糖尿病研究基金マンスリーサポーターは

- 月々1,000円から始められます。
- 毎年“IDDMレポート(白書)”で助成先の報告をします。
- メールで金額の変更や停止ができます。
- クレジットカード、口座振替どちらもご利用いただけます。

寄付金控除
の対象です
当基金へのご寄付は
税制上の優遇措置を
受けることができます

1

WEBサイトから申し込む

IDDM マンスリー

検索

<https://japan-iddm.net/support/fund/monthly/>



2

申し込み用紙で申し込む(口座振替のみ)

同封の申し込み用紙にご記入の上
ご郵送ください。